

### 3 研究のまとめ

#### (1) 成果

・英語教育の現状と、これからの中学校英語科の授業で育成を目指す資質・能力や見方・考え方について整理することができました。

・新学習指導要領の趣旨を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」のある授業とはどのようなものか、また、どのように授業を見直し、質的改善を図っていくのかについて整理しました。そして、日々の授業づくりについて視点を持って振り返ることで、教師は具体的に課題に向き合い、改善を図ることができると考え、実態把握をサポートする「授業振り返りシート」や授業の質的改善を行う際の手立ての例を示した「授業の質的改善の手立てシート」を作成しました。

・「主体的・対話的で深い学び」の視点を持って授業を振り返り、現状を踏まえて改善策を考え、授業に取り入れていったことで、生徒に思考させ、アクティブに学ばせる授業づくりを推進することができました。

#### (2) 課題と 2 年次に向けた展望

・生徒の実態に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の質的改善を図るまでの道筋について、妥当性をより明らかにすることや、継続して実践することが可能なものにしていく必要があります。また、授業振り返りシートや質的改善の手立てシートの項目についても、実際に効果があるものにするために、改善を図っていく必要があります。2 年次も理論研究や授業実践を通じた検証を継続して行い、より汎用性のあるものを提案していきます。

・「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業づくりが、英語科として身に付けさせたい知識及び技能の確実な習得につながるかどうかの検証が十分ではありません。次年度は、複数回の授業の動画記録、筆記テスト、パフォーマンステスト、意識調査を実施する中で、五領域別に生徒の変容を把握し、それらの結果と授業における質的改善の手立てとの関連性を明らかにしていきます。その結果を基に、授業の質的改善の道筋の修正や手立ての開発を進めます。